

# 山梨県立 考古博物館だより NO. 76

<http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

## 第31回特別展



# 食いしんぼうの縄文人

## いざとなったら縄文食～日本の食と心の源流～



特別展では、縄文時代早期(約 10,000 年前)の佐賀、長野の出土品をはじめ、滋賀、群馬、埼玉、東京、山梨から出土した狩猟・採集・加工・アクセサリーなど縄文文化の選りすぐり逸品約 300 点を展示いたします。

平成25年  
9月25日(水)～  
11月24日(日)  
休館日：毎週月曜日  
祝日の場合は開館



縄文人の生活(イメージ)



東京都北区中里貝塚丸木舟 (東京都指定文化財)



滋賀県大津市粟津湖底遺跡  
クルミペンダント



東京都町田市木曽中学校遺跡  
クルミ形土器

開館満 30 周年、140 万人のお客様を迎えた山梨県立考古博物館では、第 31 回特別展として「食いしんぼうの縄文人 いざとなったら縄文食～日本の食と心の源流～」を開催いたします。

縄文時代の食をとおして、自然との共生、どのように向き合いながら暮らしてきたかについて知っていただけると、現代生活において何が課題なのかが見えてくると思います。東日本では初めての公開となります佐賀県東名遺跡の編籠をはじめとする縄文時代早期の資料など、保存や加工といった高度な縄文技術の一端を知っていただけるものと思います。また、滋賀県粟津湖底遺跡、東京都木曽中学校遺跡、神奈川県勝坂遺跡などから発見されたクルミ形のペンダントや土器といったものからは、単に食料といった存在に留まらない「モノ」に対する縄文人の考え方が見えてまいります。展示品総数は約 300 点あります。これらの中からいろいろなことを想像してみてください。

是非、この機会にご来館いただき、高度な縄文人たちの暮らしの一端を、出土品から読み取っていただければ幸いです。

平成 25 年 9 月

山梨県立考古博物館 館長 望月 和俊

## 第31回特別展

## 食いしんぼうの縄文人

いざとなったら縄文食 ～日本の食と心の源流～展

今から1万3千年ほど前に始まった縄文文化。我々が想像しているよりもはるかに高度で、文明的な技術を有していたことはあまり紹介されていないこともあり、知られていないのも事実です。また、狩猟・採集・加工といった生きていくための基本事項である「食」についても、厳しい自然環境との共存の中でとても苦しい生活を想像させられるが、発掘された品々から教えられることは、とても豊かな食料事情とそれらを加工・保存するための優れた技術があったということです。

今回は従来より認知されている中期以降に東日本で発達した縄文文化とは別に、中期以前に関西や九州地方に発達した想像以上に優れた縄文文化の一端を紹介いたします。ご覧頂く多くの資料はみなさんが思い描いた「縄文」の認識を覆してくれるものと思います。

## I 日本の食文化史における縄文時代

約1万年前の早期から後期にかけて縄文人の素顔を出土人骨から探っていきます。下顎骨の歯の擦り減り方から当時の人々の日常生活の一端が想像できます。

- 長野県北相木村柘原岩陰遺跡（早期・頭骨および複顔）
- 埼玉県さいたま市円正寺（前期・頭骨および複顔）
- 滋賀県大津市粟津湖底遺跡（中期・下顎骨）
- 東京都北区西ヶ原貝塚（後期・全身骨格） など



写真：長野県北相木村柘原岩陰遺跡出土人骨複顔（北相木村教育委員会）

## II 食を求めて山へ川へ海へ — 狩猟・漁労 —

狩猟・漁労具のこだわりの逸品を紹介します。漆を使って美しく装飾された弓、動物の骨を細工して作られた職人氣質の道具、川や海に漕ぎ出でた丸木舟がやってきます。

- 佐賀県佐賀市東名遺跡（海の男たちの漁労具）
- 滋賀県大津市粟津湖底遺跡（湖と共にくらした人々の道具）
- 埼玉県さいたま市寿能泥炭層遺跡（彩られた狩猟具）
- 東京都東村山市下宅部遺跡（彩られた狩猟具）
- 東京都北区中里貝塚（海へ漕ぎ出でた舟） など



写真：埼玉県さいたま市寿能泥炭層遺跡出土飾り弓（埼玉県教育委員会）



静岡県の登呂博物館から丸木舟がやってくるヨ！体験用なので実際に乗りこんでみよう。



### Ⅲ 自然と共に暮らす — 採集・栽培 —

縄文時代に農耕が存在したという仮説があります。近年、種子・種実類をはじめとする多くの植物遺存体が発見され、組織的な栽培を行っていた可能性が指摘されています。「食」とは異なりますが漆の利用そのものが下草刈りをはじめとする管理栽培が必要なだけに、当然と言えば当たり前の行為と考えられる訳ですが、狩猟と採集が主体のライフスタイルでないことは確かなようです。

- 佐賀県佐賀市東名遺跡（ドングリ・牡蠣）
- 長野県北相木村栃原岩陰遺跡（カワシンジュガイほか）
- 長野県富士見町藤内遺跡（カチグリ）
- 山梨県甲府市上の平遺跡（エゴマ）
- 山梨県北杜市酒呑場遺跡（ダイズ混入土器）
- 埼玉県さいたま市南鴻沼遺跡（クルミ）
- 群馬県安中市細田1遺跡（クリ・エゴマ・クルミ）
- 群馬県太田市下田遺跡（石斧柄） など



写真上下：山梨県北杜市酒呑場遺跡出土  
深鉢形土器（国重要文化財）  
発見されたダイズの痕跡  
（当館）

### Ⅳ 糧を大事に食を楽しむ — 貯蔵と調理 —

約7千年前の佐賀県東名人は、とても高度な編み籠を使ってドングリの灰汁抜きを行っていました。これは従来の想定を大幅に覆す発見でした。また、約6千年前の人々は、素材を素材としてのみ食するだけでなく、加工し現代人と同様にハンバーグ状にしたものを食していました。

- 佐賀県佐賀市東名遺跡（編み籠）
- 群馬県太田市下田遺跡（漆器）
- 群馬県安中市行田大道北遺跡（ハンバーグ状炭化物）
- 長野県富士見町曾利遺跡（パン状炭化物）
- 山梨県酒呑場遺跡（有孔鏝付土器） など



写真右：佐賀県佐賀市東名遺跡出土  
編み籠復元品  
（佐賀市教育委員会）  
写真左：群馬県安中市行田大道北遺跡出土  
ハンバーグ状炭化物  
（安中市教育委員会）

### Ⅴ 日本の食と心の源流

単に食料といった存在に留まらない縄文人たちの「モノ」に対する考え方が造形として表現された逸品を紹介します。また、動物骨や貝を利用した装身具には、縄文人たちの自然との共生への思いが伝わってきます。

- 佐賀県佐賀市東名遺跡（各種装身具）
- 滋賀県大津市粟津湖底遺跡（クルミペンダント）
- 山梨県北杜市甲ツ原遺跡（動物装飾付土器）
- 神奈川県厚木市恩名沖原遺跡（魚影付土器）
- 神奈川県相模原市勝坂遺跡（クルミ形ペンダント） など



写真右：佐賀県佐賀市東名遺跡出土  
熊の犬歯ペンダント  
（佐賀市教育委員会）  
写真左：神奈川県厚木市恩名沖原遺跡出土  
魚影付土器  
（厚木教育委員会）市指定文化財

富士の国やまなし国文祭記念事業

## 第31回特別展 「食いしんぼうの縄文人 いざとなったら縄文食～日本の食と心の源流～」のご案内

**開催期間** 平成25年9月25日（水）～11月24日（日）月曜日は休館（祝日の場合は開館）

**観覧時間** 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

**観覧料** 一般・大学生 600（480）円 小・中・高校生 300（240）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※ 常設展の観覧は、別途常設展観覧券が必要です。

※ 特別展・常設展セット（共通観覧券）は個人・団体関係なく、一般・大学生 640円、小・中・高校生 320円です。

※ 11月20日（水）県民の日は観覧料無料です。



## 平成25年度博物館学芸員実習

当館では年1回、学芸員資格取得を希望する学生の方を受け入れ、学芸員実習を行っています。今年度は6名が8月1日(木)から8月10日(土)までの日程の中で9日間、様々な実習を通じて学芸員にとって必要なことは何かを学びました。

実習では、館内の展示見学や教育普及活動の見学および実践、資料梱包材の作成、資料梱包の実践、資料展示の実践、展示環境の調査、セミナー・イベントの補助、企画展展示計画発表・レポート作成などを行いました。



## 祝 入館者 1,400,000 人突破!

夏休みに入ってすぐの7月26日(金)に、1982年の開館以来の累積入館者数が140万人目を達成しました。140万人目となった東京都小金井市立緑小学校のみなさんには、望月館長より大丸山古墳(甲府市)出土の三角縁獣文帯三神三獣鏡(青銅鏡)のレプリカと花束などが贈られました。



## 特別展関連イベントのお知らせ

### 特別講演会 <要お申込み>

10月6日(日)「縄文の植物食」

講師：元国立歴史民俗博物館 教授 西本 豊弘 氏

10月13日(日)「木製具からみた縄文の食文化」

講師：首都大学東京 教授 山田 昌久 氏

10月27日(日)「貝塚から見た縄文の漁労・狩猟」

講師：山梨県立博物館 学芸員 植月 学 氏

### 第60回史跡文化財セミナー <要お申込み>

10月20日(日)「考古博物館周辺で縄文食を探す」 講師：当館職員 雨宮 加代子

### その他の関連イベント <チャレンジ博物館は、風土記の丘研修センターまで要お申込み>

10月20日(日) 小・中学生チャレンジ博物館「縄文土器をつくろう」

10月26日(土) 考古博物館の日「縄文カフェ開店!」

11月9日(土) 縄文食イベント

11月17日(日) 小・中学生チャレンジ博物館「森の草木で染めてみよう」

11月20日(水) 県民の日記念「県民の日イベント」

講演会・セミナーの  
お申し込み・お問い合わせ

山梨県立考古博物館  
055-266-3881

風土記の丘研修センター  
055-266-5286

インターネット・携帯電話からも  
お申し込みいただけます

### ぬりえをぬって考古博物館へ行こう!

特別展のぬりえをぬって考古博物館へ持ってきてくれた小学生は特別展観覧料が無料になります。

## 夏休みフリーパスポートで考古博物館を満喫!

今年も県内の小中学生に「4館夏休みフリーパスポート」が配布されました。この夏休みフリーパスポートは、県立博物館、美術館、文学館、当館の4館が行っているもので、7月10日～8月31日の期間、児童・生徒がこれを持参すると何回でも観覧料が無料になります。今年も昨年同様に猛暑となった夏でしたが、多くの児童・生徒さんが来館してくれました。

また、これにあわせて7月20日(土)から8月31日(土)までイベントを開催しました。毎年勾玉づくりに参加している小学生。青銅鏡作りを体験し、鏡のうつくしさに魅せられた中学生。気に入った文様の縄文土器破片から拓本カード作りにチャレンジしてくれたお友達。自転車で訪れ、拓本を作ってトンボ玉を買って帰った小学生。トンボ玉作りにはまってしまった小学生。友達と協力して火起こしに挑戦した小学生。特別展に合わせて始めたクルミペンダント作りに参加してくれた小中学生のみなさん。大勢のみなさんが、夏休み中、考古博物館でいろいろな体験をして楽しんでくれました。

新指定展

祝・国重要文化財指定答申「酒呑場遺跡」

◆会期：3月1日(金)～7月12日(金)

北杜市酒呑場遺跡から出土した縄文時代中期(約5000年前)を中心とする遺物683点(当館所蔵)が、国の重要文化財に指定されました。平成25年2月27日に開かれた国の文化審議会において、指定が答申されましたことに合わせて一部の資料を紹介しました。



指定物件の一部



春季企画展

「武田と城と城下町～信玄たちが駆け抜けた時代～」

◆会期：4月27日(土)～6月30日(日)

山梨といえば「武田信玄」。信虎・信玄・勝頼の武田三代が暮らした、武田氏館跡(国指定史跡)は、今の武田神社の場所にあたります。戦国時代を雄壮に駆けぬけた武田一族とその家臣たちは実際にはどんな暮らしをしていたのか。発掘調査で見つかった出土品の数々から「風林火山」の時代を紹介しました。



武田氏館跡出土  
馬鐙小札の一部  
(甲府市教育委員会所蔵)



国指定史跡武田氏館跡

新指定展

県指定文化財「海道前C遺跡土坑出土品」

◆会期：4月10日(水)  
～5月31日(金)

この度、当館が所蔵する北杜市海道前C遺跡土坑出土品(4点)が新しく山梨県指定有形文化財(考古資料)になったことを記念して行いました。(有考古第41号)【平成25年1月10日指定】



信仰にちなんだ出土品

人面装飾付深鉢形土器共に男性器を象った石棒が共に発見されたことは、縄文人の生殖及び豊穡に対する強い思いが込められているものと考えられ、当時の信仰のあり方を示す貴重な資料です。

夏季企画展

「日本一の富士山展～人々の信仰と暮らし～」

◆会期：7月13日(土)  
～9月1日(日)

神聖で荘厳な姿の富士山は、山域から山頂への登拝及び山麓の霊地への巡礼を通じて、富士山を居所とする神仏の霊力を獲得し、自らの擬死再生を求めるといった独特の性質を持つ富士山信仰を育んできました。展示では、山梨・静岡両県の構成資産の発掘調査で明らかとなった富士山に対する信仰の姿と共に、噴火災害と共に生きてきた人々の暮らしの跡を紹介しました。



夏季企画展示プレミニ展示

「富士山への祈り～信仰の遺跡～」

◆会期：6月19日(水)～7月12日(金)

史跡富士山から世界文化遺産登録への飛躍の時に合わせて、富士山の信仰に関係する出土品を展示しました。



吉田口登山道  
馬返し地点でのお焚きあげ



富士河口湖町炭焼遺跡出土  
火打ち金



2合目の調査の様子



吉田口登山道 馬返しの鳥居

職場体験・インターンシップを受け入れています

当館では、県、中学校・高等学校の職場体験・インターンシップの受け入れをしています。今年度は中学校12校、高等学校2校の合わせて29名の生徒が来館し、学芸員の仕事や文化財の保護に関する仕事について学びました。



# 第25回 風土記の丘こどもまつりを開催しました

今年は5月5・6日の2日間、指定管理者との共催で風土記の丘・曽根丘陵公園をメイン会場に開催しました。2日間で延べ約25,000人近くの方に来場いただきました。毎年大人気の「勾玉作り」、「トンボ玉作り」など、様々なアトラクションで楽しみながら、古代への興味、関心を高めていただきました。



## アトラクション内容

- 「古代の火起こし」体験→まいぎり式火起こし器で火起こしを体験!
- 「狩猟体験」→弓矢での狩猟体験!
- 「古代と遊ぼう」→埴輪を的にした輪投げや、土器や土偶のパズルにチャレンジ!
- 「鹿肉燻製」→縄文風スナックを体験!
- 「黒米ご飯」→古代の食感
- 「勾玉作り」体験→親子で古墳時代のアクセサリー勾玉作り!
- 「トンボ玉作り」体験→古代の装身具作りに挑戦!
- 「縄文土器太鼓」体験→岡谷市民が中心の『JOMON DOKI DRUMBAND 森の精霊』の演奏に参加して太鼓をたたこう!
- 「史跡クイズウォークラリー」→曽根丘陵公園内や博物館内にあるクイズを解きながら公園内を散策!
- 「クラフトを作ろう」→白樺の木でクラフト体験!

## 小・中学生親子ものづくり教室 チャレンジ博物館

出土資料をモデルに、古代技術を体験しました。

### ※ 第1回「大きな勾玉をつくろう」(5/26)

石を削り、磨いて大きな勾玉をつくることを通して、古墳時代の装身具をつくる技術を体験しました。

### ※ 第2回「縄文時代の布を編んでみよう」(6/16)

編布台を使って、縄文時代の布作りを体験しました。きれいに編み上がると規則的な美しい布ができます。

### ※ 第3回「縄文時代のアクセサリーをつくろう」(6/30)

博物館に展示されている県内出土品を参考に、「<sup>ツバ</sup>状耳飾」をつくりました。紐を付けてペンダントにしました。

### ※ 第4回「縄文土器をつくろう」(7/14,21,8/4)

夏休み恒例のイベント。県内出土の実物資料をモデルに、天然の粘土を素材にして土器づくりの技術を学びました。

### ※ 第5回「縄文時代のかごをつくろう」(8/18)

「縄文ポシェット」を参考に、小さめのかごづくりをしました。小さめのかごを作りながら、縄文時代の「網代編み」の技術を体験学習しました。



縄文の布が完成



土器の作成

## 大人のものづくり教室 原始古代の技に学ぶ

本格的な材料・方法を用いつつ、「普段使い」できるものづくりを体験しました。

### ※ 第1回「トンボ玉作り教室」(4/13)

色模様が表現された8世紀代のトンボ玉(奈良東大寺正倉院宝物)などを見本とし製作体験を行いました。

### ※ 第2回「青銅鏡作り体験」(5/25・6/1)

青銅器鑄造には銅と錫を使用し、弥生時代の合金技術を体験しました。磨き上げると美しい輝きを放ちました。

### ※ 第3回「縄文土器作り体験」(6/8,15,29)

県内出土の実物資料をモデルに、天然の粘土を素材にして土器づくりの技術を学びました

### ※ 第4回「草木染め教室」(7/9)

藍染めの歴史や仕組みを学びながら、タデアイ(乾燥させた葉)でリネン(麻)100%のストール(約48cm×190cm)をブルーに染めました。

### ※ 第5回「トンボ玉作り教室」(8/10)

平林2号墳出土のトンボ玉や美しい色模様が表現された8世紀代のトンボ玉(奈良東大寺正倉院宝物)などを見本とし製作体験を行いました。



完成した青銅鏡



トンボ玉が完成



草木染め

講演会

富士の国やまなし国文祭フットパス関連事業

史跡文化財セミナー

第57回 信玄公の御館を訪ねる

共催：県埋蔵文化財センター

日時：4月28日(日)

講師：林 陽一郎 氏

武田氏館跡を中心に、周辺の史跡や文化財を訪ねました。途中で焼き米の試食をしながら戦国時代を堪能しました。

第58回 北杜市の縄文ムラを訪ねる

日時：6月16日(日)

講師：北杜市教育委員会 村松 佳幸 氏

北杜市考古資料館を中心に、周辺の史跡や文化財を訪ねる予定でしたが、天候不順のため資料館の見学を行いました。

第59回 河口御師の里を訪ねる

日時：8月4日(日)

講師：富士河口湖町教育委員会 杉本 悠樹 氏

世界遺産富士山の構成資産である河口浅間神社を中心に、周辺の史跡や文化財を訪ねました。



武田氏館にて



河口浅間神社にて

考古学講座

全4回修了者 17名

「考古学が語る 暮らし・環境・自然災害」パート2

昨年に続き2ヶ年目の講座となります。我々の先祖が災害とどのように向き合ってきたかわかる講座でした。

第1回 6月9日(日)「奈良・平安時代編 富士山の火山災害と人々の暮らし～最新の発掘成果に見る災害の痕跡～」

講師：富士河口湖町教育委員会 杉本 悠樹 氏

第2回 6月30日(日)「中世編 地震災害の痕跡と水害との戦い～低地部の液状化現象と東日本大震災の復興現場の現状～」

講師：宮城県教育庁 保坂 和博 氏

第3回 7月21日(日)「近世編 水害と水防の歴史～武田の時代から続く先進的治水対策の継承～」

講師：南アルプス市教育委員会 斎藤 秀樹 氏

第4回 8月18日(日)「近代から現代編 災害の教訓から身を守る～最近の活断層研究と考古学の融合～」

講師：山梨県立大学 興水 達司 氏

イベント

考古博物館の日イベント

●甲冑を着て戦国武将に変身!&焼き米を食べてみよう!

4月27日(土)

甲冑の着用体験をして記念撮影。戦国時代の陣中食の焼き米を試食しました。

●竪穴住居でおはなし会&どんぐりデザートを作ろう!食べよう!

5月25日(土)

古代の広場の竪穴住居の前に読み聞かせの絵本を使っておはなし会をしました。その後でみんなで、「どんぐり白玉のニフトコシロップがけ」を食べました。

●富士山のお札を刷ろう!

6月22日(土)

御師の外川家が富士講信者に配った3種類のお札を、実際に版木から刷る体験をしました。



甲冑試着の様子



おはなし会のようす



お札を刷るようす

●考古探検隊夏 考古博ナイトミュージアム

7月27日(土)

普段明るい展示室では見過ごしてしまう展示物の顔つきを、暗い館内を懐中電灯で照らしながら散策しました。普段何気ない展示物も、また違った顔つきを見ることができました。古代の人たちもこんな様子だったかな?



暗い展示室を探検する様子

## 第11回 わたしたちの研究室

小・中学生の研究成果を募集しています!

夏休みの自由研究や選択社会、総合的な学習の時間など、児童・生徒の研究作品を募集しています。この事業は、小中学生のみなさんが考古学や歴史の楽しさを知り、興味を持つ機会とするために実施しております。優秀作品を表彰する他、応募いただいた研究成果すべてを公開・展示いたします。

<b>内 容</b>	山梨県の考古学や歴史学などの社会科歴史的分野に関係する研究成果
<b>対 象</b>	県内の小中学生(個人やグループ、学級・学年・学校単位)
<b>部 門</b>	個人研究部門・小学校の部 個人研究部門・中学校の部 児童・生徒がそれぞれ自由なテーマで、または教育課程において統一したテーマで取り組んだ個人研究・作品およびグループ研究・作品 <b>団体研究部門</b> 学級・学年・学校(部活動等を含む)で行った研究または統一したテーマのもとで研究した児童・生徒個人の成果をとりまとめたもの、あるいはその指導過程3つの部門それぞれ
<b>表 彰</b>	3つの部門それぞれ最優秀賞(教育委員長賞)1名、優秀賞(教育長賞)2名、努力賞(県考古学協会賞)若干名、奨励賞(館長賞)若干名
<b>応募規定</b>	① 学校で取りまとめて郵送もしくはご持参ください。 ② 研究成果(表紙)・作品には学校名・学年・氏名・ふりがな・テーマを記載してください。 ③ 申し込み時に「参加申込書」(様式1)と「展示用解説書」(様式2, 団体部門Ⅱのみ)をご提出ください。 ④ 未発表のものであれば過去(概ね1年以内)に研究した成果でも応募可とします。
<b>応募期間</b>	平成25年9月1日(日)～11月30日(土)

※ ご応募の詳細・応募用紙などは当館ホームページに掲載しております。

## 考古博物館・風土記の丘研修センター利用のご案内

**山梨県立考古博物館** TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882

開館時間 午前9時から午後5時まで  
ただし、入館は午後4時30分まで

休館日 毎週月曜日(祝祭日・振替休日を除く)  
祝日の翌日(日曜日・祝日を除く)  
12月29日～1月1日

### ※次の場合観覧料が免除になります

- ・65才以上の方(ただし、特別展は県外の方を除く)
- ・障害者手帳をお持ちの方
- ・毎週土曜日の小・中学生、高校生
- ・県民の日(11月20日)
- ・県内の学校の教育課程での見学(下記参照)

### 県内の学校の利用と観覧料免除について

- ・教育課程(県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校)で入館される場合は観覧料が免除になります。
- ・見学予定日の10日くらい前までに、観覧料免除申請書を提出してください。
- ・見学時間を充分にとり、ゆっくりと見学できるようにしてください。
- ・できるだけ下見をし、担当と打ち合わせをしてください。

学校見学の申し込みと問い合わせ先

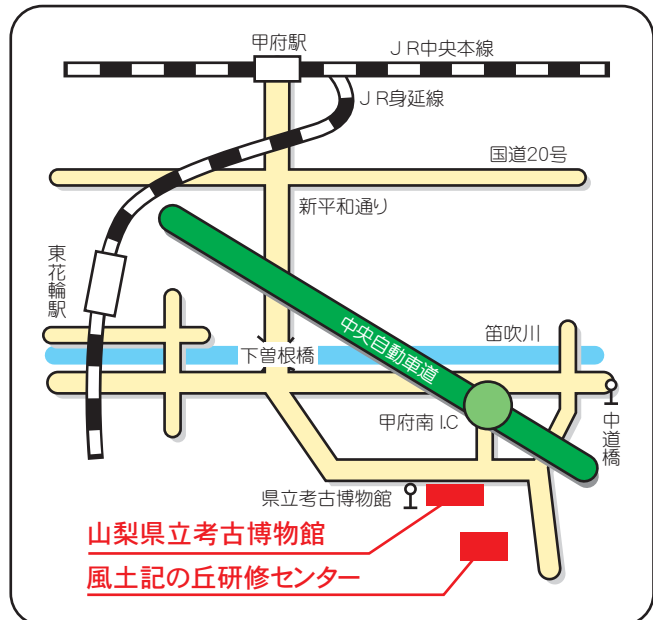
055(266)5286 風土記の丘研修センター

### 交 通

- (1) 路線バスの利用
  - ・甲府駅より豊富行(中道橋経由)→「県立考古博物館」下車
  - ・甲府駅より市立甲府病院行→市立甲府病院で下車乗り換え・富士急平和観光バス古閑町行→「風土記の丘農産物直売所」下車
- (2) 自家用車の利用
  - 中央自動車道甲府南インターチェンジ前

**風土記の丘研修センター** TEL 055-266-5286 FAX 055-266-5287

休館日 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)  
12月29日から1月3日



いよいよ特別展の季節となりました。平成25年度上半期の活動をお知らせする考古博物館だより76号をお届けします。今年度も展示・イベント・講演会など、盛りだくさんの内容でした。折り返し地点の下半期もみなさまに楽しんでいただけるような企画を多数準備しておりますので、ぜひご来館ください。(幸)

発行日 平成25年8月30日  
発行 山梨県立考古博物館  
住所 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923  
電話 055-266-3881  
印刷 株式会社 峽南堂印刷所